

テは」と言つて、
ノンシによる急激な農作物被害の発生と、自身も農園を荒らされるなか、近隣の人々の嘆きと共に感し立ち上がった有志が、有効な行動を取ることによって、害獣捕獲隊を結成、駆除に乗り出したことにはじまる。



最新設備の獣肉処理加工施設（佐島）での解体作業

イノシシ肉の商品化へゴー！

●シシ肉商品化

いま町で進行していることのひとつにイノシシ肉の商品化がある。

●住民自治の力タチ
り組みが始まつたと言つても過言ではない。

いきなりのことでの奇異に思えるかもしれないが、これは住民自治のひとつのかたちなのである。

広島の獣師Yさん（ご自身の処理施設をもつジビエ専門店経営者）から過去2度にわたるレクチャー（座学と実地）を受け、初めて自分たちだけの手で行つた一連の解体作業が6月1日にあり見学した。獲物は150キロの雄。

食肉処理には法律に基づいた厳格な環境維持が求められ、見学はガラス越しである。

商品になる肉質が確保出来るようになつても良い品を売るとなればまた課題がある。品質の確立と安定供給、販売ルートの確保。よつて引き続いてそうしたつながりも構築してゆかねばならない。

●ガラス越し解体見学

まだまだどこに出しても絶対大丈夫というところまでには達していないと思うが熱心な彼らのこと、間もなく上質な猪肉として結実するであろう。

卷之三

この度は、捕獲から解体まで

1

か年金組といふ世代、リタイアして町に帰り、普通ならんびり暮らすところをボランティアで駆け回つてゐる。こうしてみると、この町の住民自治の健全さは、若い頃は町の外で働いて来た人々によつてその多くを支えられ保たれていると見えるのだが、どうだろう。そこに無かつたことが出現するには、底流として様々な人のつながりがある。人間ひとりで成し得ることは多くはない。そういう謙虚さを強く心に留め町の将来に繋がる仕組みづくりに取り組めればよいなあと思う。

猪肉、鹿肉調理の専門家たちと歓談する捕獲隊員

人つながりが町を支える

在なのだ。坂城住民の殺の存在

肉になるまでの手順は概ね次の通りだ。
捕獲（餌にかかる）→銃にヒット
る止め→血抜き（出来れば脳に止める）
状態で）→以下は処理場にての
作業。洗浄（汚れダニ等爪の垢
まで徹底的）→以下は処理場にての
リーンルームにて。冷却（水槽にて
にて一定時間）→開腹→熟成（火
藏庫にて一定期間）→皮剥下部

●処理の手順

友人が金柑の砂糖漬けをくれた。あまりのおいしさにレシピをもらい、実家の金柑ももらい、いざ挑戦。

途中までは非常にうまく出来ていたのに最後の、一番肝心なところが、あのジャヤリ感が出ない。三日もかけて作ったのにと、情けなくて涙が出そうになり師匠に試食していただいた。

青木喜代子

ス」「嫌ならやめて」と私。「いや、マジうまいっス」と残りもぺろり。ややこしい表現だ。

□メール往来

厳しい状況だからこそ 自治体トップの力量が試されます

航路の再廃止は残念ですね。理事長はじめ地元でご尽力された方々は残念だし、町長の対応には腹に据えかねるものがあるのは当然でしょうね。

遠くで経緯を断片的に聞くだけの身でしたが東京でのポスター貼りを手伝いながらこういった結果に進むこともあり得るとは思っていたので意外な感じは全く持っています。

非常に個人的な話で恐縮ですが5月31日に一時帰宅制度を利用して福島県浪江町の立ち入り規制区域にある長男の家跡に震災後初めて行ってきました。長男家族は今度の震災の津波で家を失いましたが、私はこの未曾有の災害の中、幸運にも恵まれ、家族誰欠けることなく居ることだけで感謝しています。

2011年3月18日の未明にお隣の農家のご家族6人とともにようやく町田の我が家にたどりついた時点で個人的な震災への臨戦態勢は終わりましたがその後の国はもちろんですが特に県や町の対応には被災者の家族としてがっかりさせられること多々あります。



震災と津波、原発事故とトリプルパンチを受けたればこそその自治体のトップの力量が試されます。順調な時には人柄の良いだけの首長さんだけでも問題は起きませんがそういう逆境時に力量の無い、先を見通すこ

友人と
秘めた想い

安藤朋生 茨城県

気のおけない友人に誘われ、ある教室に通うこととなった。石膏粘土で作るファニードール教室である。行く前から何も形にならないのではと消極的な考えていたものの、これがなんと面白い。後ろ向きな思いはあつという間

に筑波山の彼方に消え失せ、次は絵付けだ、その次の作品はなんやかんやと、楽しみが一気に倍増した。

この教室に誘ってくれたミオちゃん。どうやら彼女には野望があり、今回のことと少しの可能性と手応えを感じているのが見てとれた。自由に作品を作ることで稼ぐというのは心豊かになる反面、時には産みの苦しみ

も付きまとものではないだろうか。努力や想像力をたえず養い、利益ばかりを追い求めもせず、真剣に作品と向き合うのだ。

それは同時に自分の内なる魂にも、呼びかける作業ではないだろうか。気のかけない友人達と別れ新宿へと向かう。絵描きの友人から個展の案内が届いたのだ。西口の細い路地に入る。個展会場は四畳分もないだろう狭



掲示板・回覧板の感想

宮城県 本田義幾

掲示板なんてもはや無用の長物のきらりがあります。でも住民が活用することで有用になるのですね。広報紙が全戸配布されるようになつて行政のお知らせが、

では注意を促します。その点ではみんなの掲示板として再生することが大事だと思います。掲示板はお知らせを個別的にしますが、それが負担にならないため



▲ 小学校から田園を挟んで二百メートルほど離れたところにある上の孫の通つた幼稚園の跡。こんな

とのできない首長をいだくことは住民にとってかなり不幸であることも感じさせられます。えらんだのも自分達なのでしょうが。

弓削でも5mの津波表示をあちこちで見ました。防災もしっかり考えねばなりませんね。私は仕事柄貞觀の津波のことを知っていますので長男の家を建てる場所には反対だったのですが、いつ起こるともわからぬ事で長男と喧嘩してまで止める気にはならなかった。ただいつも心配でうるさく言っていたので長男夫婦の意識を高める効果はあったのかなと思っています。まさか自分の生きている間にこうなるとは思っていませんでしたが。

この事故が万が一起きるかもしれないことは東京の人も福島の人も想定内だったことは否めません。福島の多数の人はリスクより経済効果を選び、東京の人は万が一の時の影響の甚大さを考えて遠隔地に立地してもらうためそのリスクを地元に受け入れてもらえるだけの経済効果を電気料金として負担していたわけですから。

全国同じ構図なので、このことを前提として話を進めないと今後の対応も遅れるばかりで、建前論の、せっかくの教訓を十分に生かせないことになってしまうと感じています。長文にて失礼しました。

(平成12年6月4日・東京町田市 平山純)

くやよみ亭映画研究会>無料 6月15日(金)夜7時から どなたでも覗きにどうぞ



「かもめ食堂」

●フィンランド、ヘルシンキの街角でオープンした小さな食堂。主は日本人女性のサチエさん。メインメニューはおにぎり。でもお客様さんはなかなか来ない…
監督：荻上直子、出演：小林聰美、片桐はいり、もたいまさこ。

次の「出よう会」

6月19日(火) 土生集会所

7月10日(火) やよみ亭

7月17日(火) 土生集会所

時間はいづれも1時～3時

世話人：平山久子 (77-3072)

白玉智早子 (77-3413)

いバーの2階。彼の個展はしばしば拝見して来たが、どうやらいつもとは違う良い風が吹き込んだようだ。

誰にでも可能性はあるのに、封じ込めてしまう理性。とびきりぶつ飛んでなくたっていいのだ。コツコツやり続ける粘り強さを継続していくのが大変なだけ。この秘めた想いを諦めずに育てるぞ。そして思い続けた島にいよいよ行く時が来た。



㉓

